

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和 8 年 8 月)

～中東情勢の影響の緩和や、訪日客・気温効果で現状判断は改善～

- 景気ウォッチャー調査・8 月調査の近畿地域の結果は、現状判断が 46.0 と前月比で 2 か月連続の上昇（+1.7 ポイント）となった。ただし、好不調の判断の目安となる 50 は 20 か月連続で下回っている。先行き判断も 46.2 と 4 か月連続の上昇（+2.8 ポイント）となっている。
- 足元の景気については、中東情勢の混乱による影響で、原油や関連製品の価格高騰は続いているものの、当初に比べれば影響自体は緩和傾向にある。また、前月に続いている猛暑で、外出の減少につながる動きはみられるものの、夏物商材の販売増にもつながっており、家電量販店やコンビニ、タクシーなどを中心に売上の押し上げ要素となっている。インバウンドに関しても、中国人客の減少が続く一方、円安の追い風や中国以外からの増加で堅調な推移が続き、百貨店などでは関連売上の増加がみられる。
- そうした中、かねてからの物価の上昇傾向が、中東情勢の影響でさらに加速しつつある。結果として、消費者による節約志向もさらに強まっており、スーパーや家電などを中心に、幅広い業界で購入量の減少などが指摘されている。
- 景気の先行きについては、猛暑が落ち着くことで、客足の増加などに期待する声があるほか、インバウンド消費が今後も増加するとの期待も大きく、百貨店を中心に売上へのプラス効果を予想する声が少ない。
- 一方、中東情勢の影響については、当初に比べれば落ち着きつつあるものの、コストの上昇だけでなく、品不足に関する声も依然として聞かれる。業種も多岐にわたっており、先行きは楽観できない状況である。
- その中東情勢の影響が拍車をかける形となり、物価の上昇については今後の急騰への懸念が高まっている。それに伴う節約志向の強化への警戒の声に加え、さらなる価格転嫁は困難とする声も多いなど、依然として先行きへの大きなリスクファクターとなっている。

「中東情勢による商品不足」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当） 旅行代理店（支店長）	・ガソリンの出荷量は前年比で105%と増えている。西日本は天候要因による大きな影響もなく、前年比ではプラスの推移となった。中東情勢の変化による影響でガソリン価格は高止まりしているが、出荷量には影響していない。 ・中東情勢の変化による影響は横ばいであるが、燃油サーチャージの引上げなどで上向きとはいえないほか、熊本地震の影響もあって不安定である。
	悪くなっている	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・石油不足がいつまでも続く状況では、商品が生産できない。
企業	変わらない	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・石油関係の商品の動きがまだ滞っているほか、値上げも続いているため、動きが悪い。
雇用関連	なっていない やや良くなる	職業安定所（職員）	・物価上昇の影響は続いているが、中東情勢による資材不足には落ち着きがみられるほか、求人数にも前年比で若干の増加がみられる。

雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・3か月前は中東情勢の影響により不透明感があった。直近は、以前と同じではないものの、原料や商品が供給され、事業への影響が少なくなっている。
		職業安定所（職員）	・求人数は例年並みで推移しているが、就職件数は微減となっている。事業所からの話では、物価上昇は続いているものの、中東情勢の影響による原料不足は解消傾向にある。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（管理担当）	・中国からの渡航自粛に加え、中東情勢の影響が長期化し、派遣先のホテルの業績が悪化している。それに伴い、派遣社員の採用や期間の延長を控える施設が増えている。

「気温の上昇」関連のコメント(現状判断)

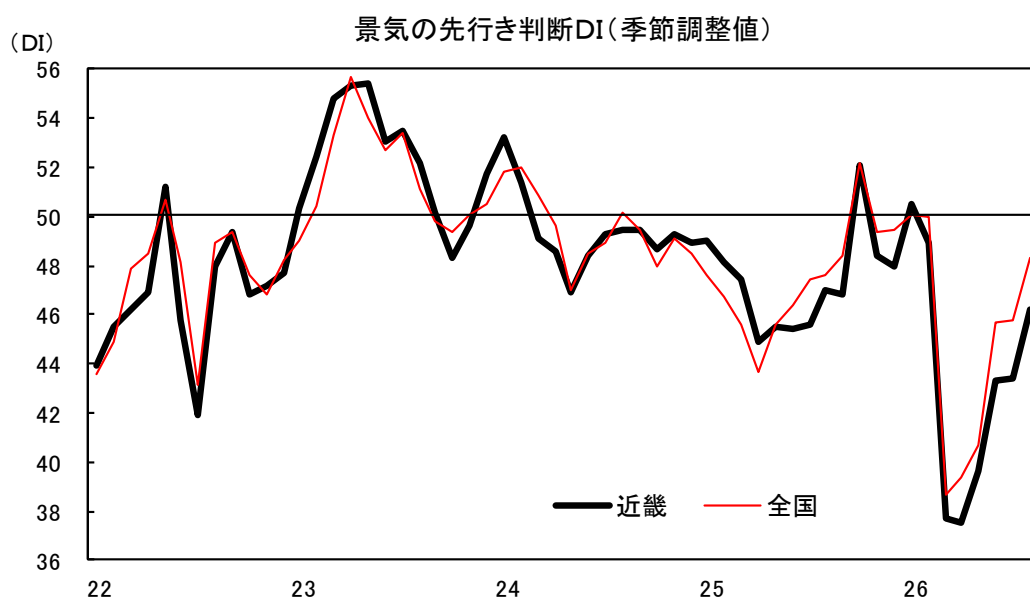
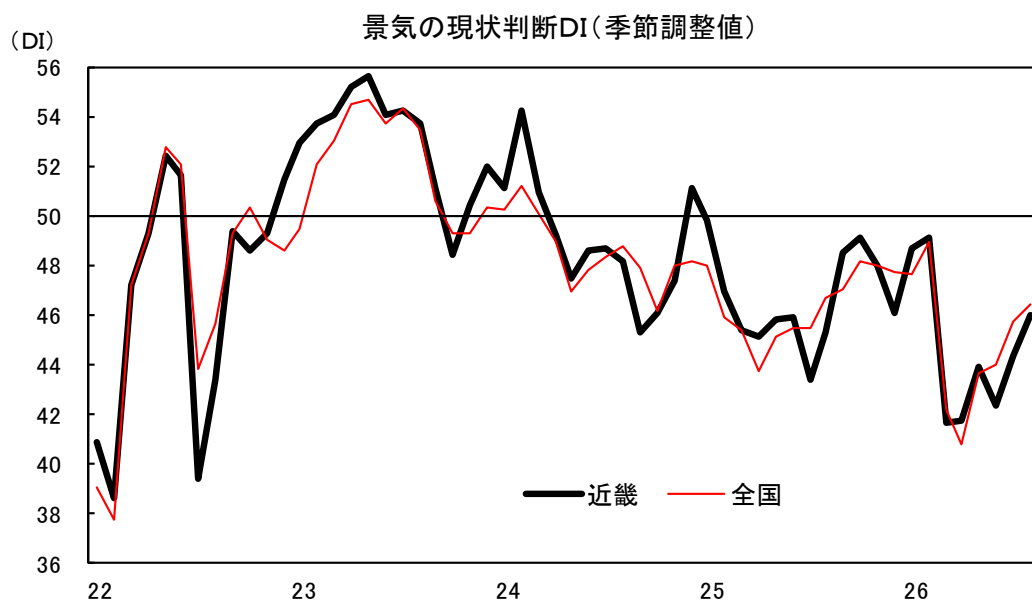
家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（販促担当）	・今月は来客数が好調に推移している。大きな天候の崩れもなく、暑さの影響で昼間の来客数はやや減少しているが、夕方からは増え、1日の平均では前年を上回っている。夕方からの来客数の増加で食品フロアの売上も伸びており、総菜や生鮮品に加え、菓子類も好調となっている。また、暑さ対策商材も好調であり、機能のしっかりした商材は、少し価格が高くても売れる傾向にある。
		コンビニ（経営者）	・暑い日が続く、ソフトドリンクの販売が伸びている。昼間の時間帯には、イートインスペースに涼みに来る年配客も増えている。
		家電量販店（人事担当）	・猛暑が続くことで、エアコンや扇風機、ハンディファンなどの、暑さ対策商材の販売が引き続き伸びた。お盆以降は販売量が落ち着いてきたため、9月以降の動きが少し心配である。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・イベントで集客が増えている施設は好調であるが、年配客が比較的多い施設については、暑さによる外出控えの影響がみられる。
	変わらない	一般小売店〔菓子〕 （営業担当）	・残暑が続いており、商品の動きが芳しくない。早く気候が良くなって、購買意欲が高まることを期待したい。
		百貨店（マネージャー）	・3か月前と比べて、大きな流れは変わらず、国内中間層の売上も4.9%増と堅調である。富裕層も特別招待会の実施により、宝飾品や美術品、特選中心の限定品など、資産価値の高い商品を中心に21.8%増と好調となっている。インバウンドも前年の大阪・関西万博の開催による反動で、来客数は30%減となったものの、客単価が57%アップし、売上は10%増となった。また、今月は気温が高かったため、クリアランスセールではサンダルやパラソル、サングラス、冷却商材などの動きが良くなっている。
		百貨店（外商担当）	・猛暑の影響もあり、来店頻度の減少がみられるが、インバウンドの来店増によりカバーできている。
		コンビニ（店員）	・猛暑の影響で来客数が伸びず、店が閑散としている時間帯が多い。
		その他専門店〔医薬品〕 （管理担当）	・スキンケア用品のほか、UV関連、制汗剤などの化粧品や化粧雑貨は順調に推移し、食品や日用雑貨などの生活必需品も好調であったが、医薬品や衛生用品の販売は減少が続いている。3か月前と比べて、客単価は上昇しているものの、猛暑の影響で来客数の伸びない状況が続いている。
		一般レストラン（経営者）	・8月の第1週は全くといってよいほど人通りがなく、近隣のスーパーにも客が余りいなかった。お盆は忙しかったが、その他の期間は暑過ぎたため、来客数は伸びていない。
		タクシー運転手	・暑さの影響で、昼間はタクシー利用率が上昇傾向にあるものの、夜間の利用率は少しずつ低下している。
		テーマパーク（職員）	・猛暑のため、外出を控える必要がある状況で、来客数を増やすのは困難である。
		美容室（店長）	・今月中旬は心配されたほど暑くなく、台風の雨もそれほど多くなかったため、来客数が予想よりも増えている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔時計〕 （経営者）	・猛暑日や酷暑日が続くなか、外出控えに対する行政の要請やマスコミの報道もあり、極端に来客数が落ち込んでいる。商業施設のような全館冷房が困難なほか、時計は不要不急の消費でもあるため、仕方ないとみられる。
		百貨店（外商担当）	・前年は大阪・関西万博が開催された影響もあるが、来客数が前年比で10%減となっている。猛暑のため、新作の秋冬商材の動きも遅い。
		スーパー（社員）	・ここ数年続いている商品価格の上昇で、客単価の上昇傾向が続いている。ただし、来客数は競合店が増えた店舗だけでなく、昼間の暑さもあって多くの店舗で減少している。
		衣料品専門店（店員）	・気温の高い日が続いているほか、お盆期間の帰省の動きと重なり、購買意欲や来客数が鈍化している。
		家電量販店（企画担当）	・新たな省エネ基準の導入や猛暑による影響で、エアコンの販売がお盆商戦までは非常に好調であったが、お盆明け以降は来客数が激減している。リフォーム補助金も、省エネ型給湯器と内窓関連にしか活用できていない。
		旅行代理店（役員）	・猛暑の影響もあり、夏休み期間中の旅行需要が伸び悩んだほか、今年は台風の発生が多く、ツアーの中止やキャンセルが発生したため、販売環境は厳しいものとなっている。
	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	・売上が前年よりも40%程度落ちている。暑さの影響もあるが、とにかく来客数が少ない。

企業動向関連	なっている やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・猛暑日が続くなかで、新商品のヒットもあり、炭酸飲料の売上が少し上向いている。
	変わらない	輸送用機械器具製造業（経営者）	・5月以降は景気が良いとはいえない。消費者物価の上昇で耐久消費財に予算が回っておらず、2024年4月以降の運送業の勤務体制変更による運賃上昇の影響も出ている。また、高い気温が続いているため、屋外で使用する物については、来客数の減少がみられる。
		輸送業（サービス担当）	・全体の荷物量が減少傾向にあり、主に小売業の荷物が前年比で10%減となっている。また、猛暑の影響で購買意欲が低下している。
	なっている やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・お盆休みが終わってから、売上が徐々に落ちている。夏休み中の支出の増加や、猛暑で昼間の外出が減ったことも影響している。

「中東情勢」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	なっている やや良くなる	乗用車販売店（役員）	・新車の販売台数は現状が底であり、今後は新型モデルの発表が相次ぐため、商談の増加が期待される。ただし、輸入車であるため、中東情勢の変化による納期の遅れや、オプション選択ができないといった状況もあり得る。
	変わらない	百貨店（商品担当）	・中東情勢が不透明な状況で、物価や株価は踊り場となっている。ファッション関連では残暑の影響が予想され、9月、10月の動きは年々鈍くなっている。売れ筋は汎用性が高いデザインカラーで、春夏秋の3シーズンウェアが多く、秋物需要がなくなっている。今年は特にその傾向が強い。
		百貨店（売場統括）	・中東情勢の先行きが不透明ななか、生活防衛意識が払拭される見通しは立っていないため、現時点では改善が見込めない。
		乗用車販売店（経営者）	・中東情勢の変化による影響で、オイルなどの入荷がないため、整備関連の売上が増えない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・中東情勢の先行きやガソリン補助金の財源問題など、不透明な部分が多いものの、現在の景況感は大きく変わらない。
		一般レストラン（企画）	・食料品や公共料金の値上げなど、家計を圧迫する要因がある一方、中東情勢は混んとしており、上向きになることはない。
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・中東情勢の不安定感が強まり、ガソリン価格が高騰している。百貨店業界では、配送費を含めた物流コストの上昇や、包材などのナフサ由来製品の価格上昇に対する懸念が高まっている。かなりの品目で毎月のように値上げが進んでいるため、早期の解決がなければ、景気の後退が避けられない。
		衣料品専門店（経営者）	・米の価格の低下が、多少の安心材料となっている。ただし、物価の上昇は収まらず、あらゆる商品の価格が上昇している。原油の供給状況や為替が安定し、安心して暮らせる状態にならない限り、本当の意味での景気回復にはならない。
		都市型ホテル（客室担当）	・長引く中国の渡航自粛や、先のみえない中東情勢、ウクライナ情勢に加え、国内では度重なる地震や異常な豪雨などが続いており、先行きには不安ばかりが募る。
	なる 悪くなる	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・物価の上昇や気候変動、中東情勢など、先行きが読めない不安要素ばかりである。それは世界全体でも同様であり、この先景気が良くなることはない。
企業動向関連	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・中東情勢の問題はまだ続きそうで、仕入れに伴う船の運賃や航海日数にも影響が出るなど、先行きが見通せず、売上、利益共に減少している。ただし、今までの木材関連の取扱商品に加えて、全く異なる品目の引き合いが始めている。情報収集を進め、見直しに積極的に対応しているが、伸びる可能性が高いと予想される。
	変 わ い ら な い	化学工業（管理担当）	・中東情勢の変化が長引く懸念がある。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・原油価格の上昇などによる不安要素はあるが、国から補助金が出ている間は現状を維持できそうである。物価の上昇で生活必需品関連の販売に不安はあるが、今までの無駄を省くなど、業務の見直しを行うことで対応していく。
	なっている やや悪くなる	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・円安によるコストの増加と、中東情勢の変化による影響などで、やや悪くなる。
		金融業（営業担当）	・中東情勢の変化による仕入れ面の問題は続いており、価格の上昇による利益の減少や、仕入れが困難なことによる売上の減少などが予想される。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・中東情勢の変化による影響を含めて、物価の上昇や資材不足に関する声が続いている。値上げによって販売量が減少したという声や、他社との競合のため、取引先への価格転嫁が難しく、利益が圧迫されているとの声もある。その一方、取引先にコスト上昇分を価格転嫁しても、業況への影響はないという声もある。今後、最低賃金の引上げを控えているが、どこまで景気に影響が出るかは不透明である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・中東情勢の変化や消費税減税に関する停滞感はあるが、若年層の人手不足という傾向があるため、求人は堅調に推移すると予想される。
	やや悪くなる	人材派遣会社（管理担当）	・中国の渡航自粛の動きや、中東情勢の変化が長期化すればするほど、更に悪化が進む。
		学校〔大学〕（就職担当）	・9月から食料品などの値上げが発表されており、消費マインドの冷え込みが予想される。また、中東情勢の変化が落ち着く見込みは立っておらず、原油に関わる諸問題の解決の道筋も不透明である。

(D I の推移)



(近畿地域のDI)

		24年				25年								26年												
		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
現状判断	近畿	48.2	45.3	46.1	47.4	51.1	49.8	46.9	45.4	45.1	45.8	45.9	43.4	45.3	48.5	49.1	48.0	46.1	48.7	49.1	41.6	41.7	43.9	42.3	44.3	46.0
	(全国)	48.8	47.9	46.2	48.0	48.2	48.0	45.9	45.4	43.7	45.1	45.5	45.5	46.7	47.0	48.2	48.0	47.7	47.6	48.9	42.2	40.8	43.6	44.0	45.7	46.4
先行き判断	近畿	49.5	49.5	48.7	49.3	48.9	49.0	48.1	47.4	44.9	45.5	45.4	45.6	47.0	46.8	52.1	48.4	48.0	50.5	48.9	37.7	37.5	39.6	43.3	43.4	46.2
	(全国)	50.2	49.5	48.0	49.1	48.5	47.6	46.7	45.6	43.7	45.6	46.4	47.4	47.6	48.4	52.2	49.4	49.5	50.1	50.0	38.7	39.4	40.7	45.7	45.8	48.3

※季節調整値